

65 学院児童指導員科カリキュラム見直しについての検討会報告

～児童指導員科卒業生の動向調査結果報告について（2）～

学院 児童指導員科 関 剛規、林 克也

【はじめに】

学院児童指導員科では、平成25年度から26年度にかけて外部有識者6名にご参集いただき、総勢8名の構成でカリキュラム見直しについての検討会（座長 江藤文夫）を設置した。設置目的は、「新たな養成課程の開設に向けて現行カリキュラムを見直し、知的障害及び発達障害分野における福祉職養成のモデルとなるカリキュラムを検討する」ことであり、これまでに4回開催した。

検討会では、これまでの基礎データとして全卒業生（1,288名）への動向調査実施の要望が示され、その結果は第30回業績発表会にて報告した。今回は、平成27年度から運用を予定している新カリキュラムの検討結果について報告する。

【経過】

○第1回検討会（平成25年4月24日）

- ・児童指導員科の概要及びカリキュラム変遷の確認
- ・知的障害及び発達障害分野における福祉職が抱える課題についての意見交換

○第2回検討会（平成25年9月11日）

- ・卒業生基礎データ報告
- ・卒業生動向調査結果報告
- ・発達障害分野カリキュラムとの比較検討

○第3回検討会（平成26年3月24日）

- ・カリキュラムの方向性について
- ・認定制度について
- ・コーディネートについて
- ・発達障害と虐待について
- ・社会福祉主事任用資格について

○第4回検討会（平成26年8月6日）

- ・新カリキュラム案についての検討
- ・今後の作業スケジュールの確認

【結果、考察】

2年間におよぶ検討会では、児童指導員科開設から50年の歴史を概観し、特に発達障害分野における現状の課題について、医療、教育、福祉それぞれの分野から検討を重ねた。また、卒業生の動向調査結果では、発達障害分野を念頭においた現行カリキュラムの抜本的な見直しと実習を中心とした新カリキュラムの構成が示唆された。そして、「強度行動障害」「発達障害」「虐待」「家族支援」「多職種連携」などの履修科目として、新カリキュラムに反映することができた。

今後も、これまで培ってきた基盤を尊重しながら、ジェネラリスト・モデルをベースとしたソーシャルワーカーの養成を目指し、時代の動向に対応し、社会のニーズに応えられる福祉専門職の養成に寄与していきたい。